

新設授業科目 改善策（開講科目名：グローバル社会における女性研究者）

担当教員名【 西堀 わか子 】

①カリキュラムの改善点、②シラバスの改善点、③授業形態の改善点、④配布資料の改善点、⑤学生への対応の改善点、⑥TAのあり方の改善点、⑦その他の改善点 などの観点項目を参考にご自由にお書きください。

1. シラバスの改善点

本科目の概要を博士後期課程の「開講科目概要」中に記載した。また、4人のゲストスピーカーの「講義テーマ」及び「開講日時」について、5月のガイダンス時に配布した「イニシアティブガイダンス資料」に記載した。しかしこれらのみでは、本科目の狙いや授業の進め方、出席状況の成績への反映、使用資料などの情報は提供できず、履修するかどうかを判断する学生への情報提供としては不十分である。従って、今後は、シラバスを作成する必要がある。また、本イニシアティブ科目は、カリキュラムの構成・指導法等、他大学にとっても参考になるような取組として文科省が採択したものであることから、シラバスの広報（HP）や特に女子大学への配布などを積極的に行ってもよいのではないか。

2. 授業形態の改善

今回は、時間的制約があり、受講生は講義を聞くことにもっぱら集中した。今後の改善案としては、授業開講日に先立ち学生にリーディングアサインメントを課し、基本的な内容・事項を自学してもらった上で授業に出席し、授業では質疑応答や教員との対話にできるだけ時間を割くという形態をとるのがよいであろう。また、社会人学生が多いことも考慮して、土・日を使う集中講義としたが、それでも実際は、半分しか出席できない、あるいは全日程出席できない学生も履修登録をしていた。社会人学生であっても、現に本学の学生であるので、できる限り授業に出ることを優先していただきたいが、それが無理であるならば、社会人学生が授業を受け易くするための、e-learning による教授法や教材を開発する他ないのなかろうか。

3. 配布資料の改善点

今回は当日の配布資料が相当あった。いずれも各教員が提示したテーマを学習する上に必要な文献である。これらの中には、開講前にリーディングアサインメントとして読んで貰うようなものも入っていたと思われる。また、配布資料にも必読、準必読、関心があれば読むなどのランクをつけて提供する必要があるかも知れない。

4. 学生への対応の改善

学生への諸連絡は、学務掲示板への掲示や学内ポストへ連絡メモを入れることで行ったが、3週間たってもメモが入ったままのポストが相当あった。メールアドレス等を科目担当教員が把握し、もっと迅速に連絡できるようにしたい。後で判ったことであるが、社会人学生の中には、東京を始め奈良から遠く離れた地域からの学生も少なくない。

5. その他

授業に出やすい環境を創っていただきたい。